

3 市民活動促進の目的

市民活動が盛んになることで、市民は普段の生活をしながらでもいろいろな活動に参加できるようになり、自分を表現するさまざまな方法を選ぶことができるようになります。

そして、日頃の暮らしの中で感じる問題点に対しても、自分で考え、自分にできる活動を行ったり、あるいは、ほかの人や団体と協力して解決していこうとすることで、「元気なまち・豊かな暮らし」を実感することができるようになります。

このことは、市役所が目的とするまちづくりや福祉の充実ともつながります。

(1) 多くの選択ができる「豊かな生き方」のために

これまでは、国や県、市などの役所が公共サービスを提供する役割を担ってきました。

しかし現在では、コンピューターの普及や情報通信技術の発達により、世界中のさまざまな活動を簡単に、しかも素早く知ることができるようになったために、市民の要望も国、県、市などの役所が応えることのできない範囲にまで広がってきています。

それと同時に、社会に役立つ活動へ参加したいという意識や、社会を変えていこうという意識は、とても高くなってきています。

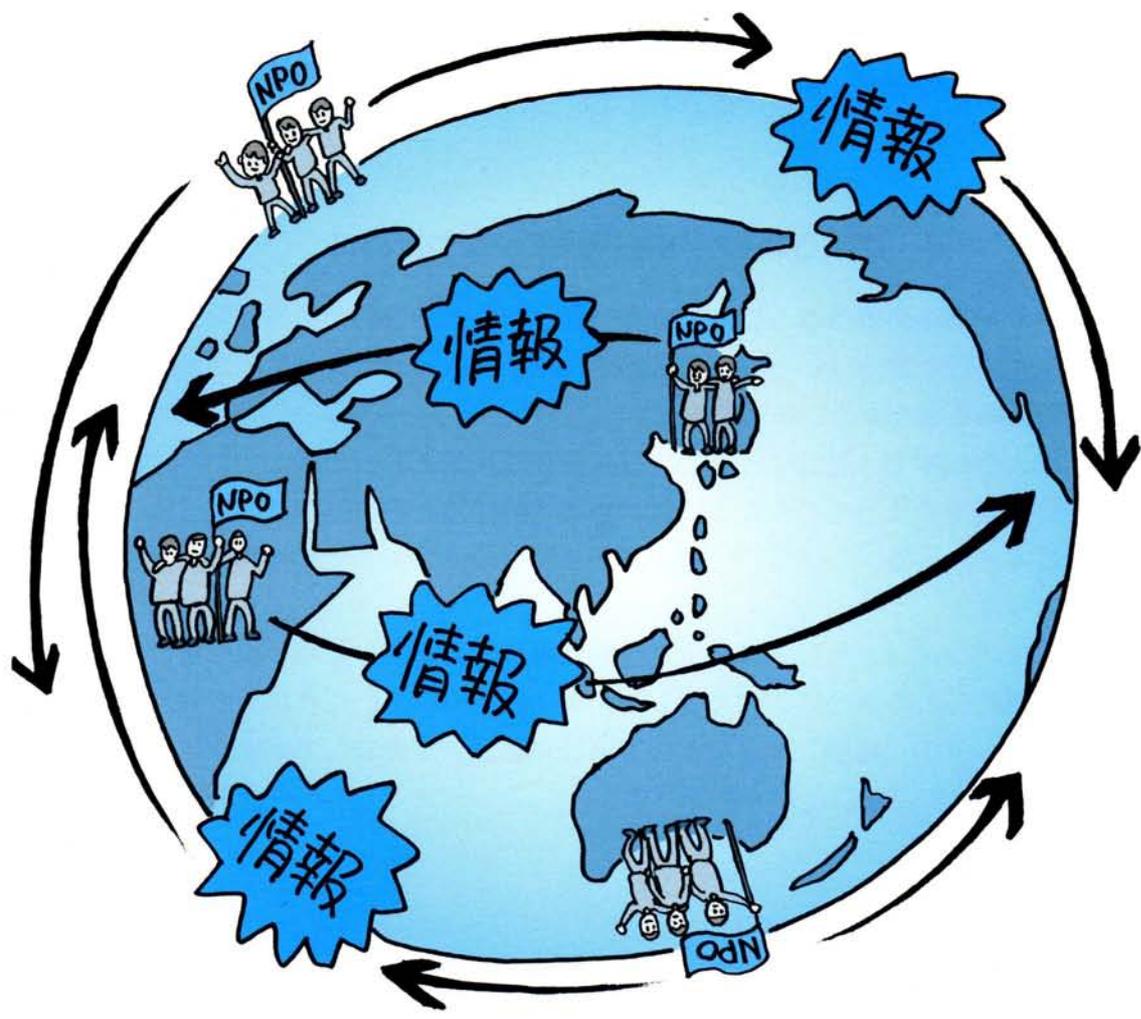
市民活動を広く進める目的は、このような市民の意識をまちづくりの活動やコミュニティ活動の中で生かし、力を十分に発揮できるようにし、いろいろな生き方が選べる社会をつくり、自らの意思で行動する市民が増えるようにすることです。

(2) 公共サービスの発展・充実を支えるために

現在、市民活動は大きく成長しています。しかし、国や県、市といった「役所」や、「企業」といった分野に対して、「市民活動」といわれる分野は、まだまだ定着していないのが現実で、豊橋においても市民活動団体や、また、その活動自体も発展途上だといえます。

市民活動といわれる分野は、いろいろな取り組みを専門的な知識と独自の考え方で、すぐに行動に移すことができるという点で、社会には欠かせない分野です。

ですから、国、県、市などの役所、企業、市民活動のそれぞれの分野が役割を分担し、ともに支えあいながら、市民活動の分野が新しい社会サービスの担い手として広く活動していけるようにすることも市民活動を進める目的です。



(3) コミュニティのまちづくり活性化のために

コミュニティは、「ヒト・モノ・コト」を財産として、生活に深く関連した問題を積極的に解決したり、その特徴を生かして、まちや人と人との関係をつくる役割を持っています。

そのためには、自ら進んで行動できる人々がそこにいることが大切です。市民活動は、身近なところで市民が参加して行われることにより、まわりのさらに多くの人に気づきや新しい考え方をもたらす効果があります。

コミュニティと市民活動団体がお互いに刺激し合い協力することにより、あるいは活動をビジネスとして成り立たせることにより、そのコミュニティが持っている可能性を発揮させることができるのです。市民活動を進める意義や目的もそこにあります。

(4) “協働”という新しい道を市役所が進むために

公共サービスの提供は、これまで国や県、市などの役所が中心となって担ってききましたが、これからはいろいろな価値観に基づいて活動を行う市民活動団体もその重要な役割を担うようになります。

そのような中で、社会にとってより大きな効果があり、市民にとってより暮らしやすい社会をつくっていくためには、市民活動団体と市役所が、さまざまな場面でともに考え、行動していく“※協働（パートナーシップ）”という考え方がとても大切になります。

そこで市役所は、市民活動団体と役割や責任を分担しながら、より豊かなまちづくりが進められるように、“協働”して考え、実行していくという姿勢が必要です。

そして、その“協働”の主役として市民活動団体が自立して活動できるよう、市民活動を進めていくことが大切なのです。

協働事業の効果：新しい公共サービス



- ①市民・市民活動団体やコミュニティ団体は、協働する主体とは対等である。
- ②お互いの意思の流れは双方向であり、下請け的關係ではない。

※ 協働（パートナーシップ）

国、県、市とNPO・市民、企業とNPO、NPOとNPOなど、異なる主体が相互に理解し、違いを認め合った上で共通の目標を設定し、対等の立場でその目標の達成に向けて知恵と力を出し合い成果を生み出すこと。